

県条例の制定を 対和歌山県交渉

対和歌山県交渉を11月8日、和歌山県民文化会館でひらき、県実行委員会、県共闘会議、各支部などから参加し、6項目の基本要求和と103項目の各支部要求、172項目の各支部要求をかけた交渉した。

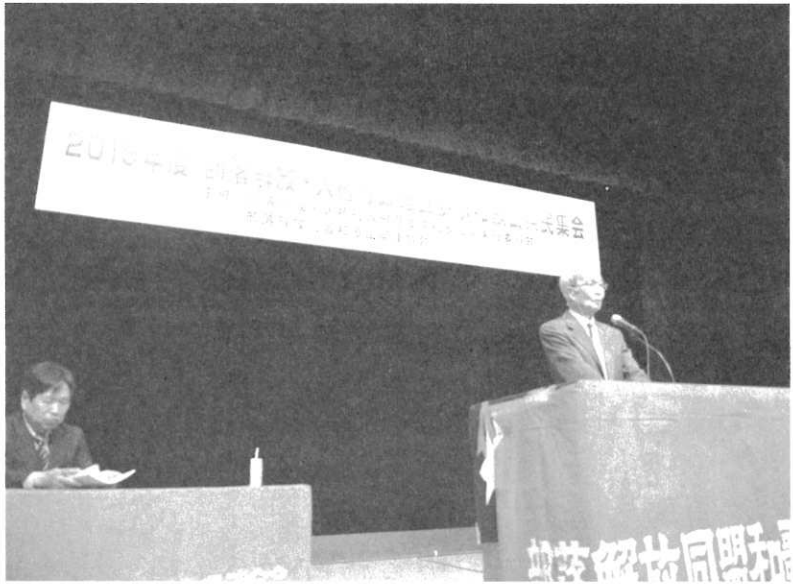
はじめに、主催者を代表して田上武・部落解放・人権行政確立要求和歌山県実行委員会会長のあいさつにつづき、藤本哲史・県連執行委員長は「部落差別解消推進法」が施行されて3年が経過した。具体的な施策を求めて市町村交渉をすすめてきた。しかし、インターネット上への差別書き込みが「推進法」制定後も多発している状況がある。さらに、被差別部落を探索するというアウティング動画をYouTubeなどにアップ

するという差別事件が発生している。市町村行政をつうじて削除依頼をしているが、なかなか削除されない状況のなか、差別された人への救済措置を盛り込んだ県条例の早期制定が望まれないが、この交渉を積み上げて条例制定にむけて前進させたい。多くの就職や結婚にかかわる差別事件が和歌山県でも発生している。一日も早い差別のない社会が望まれる。各支部では、まちづくりを意識した市町

村交渉がすすめられていると思うが、差別のないまちづくりを意識して話し合いをすすめてほしいと締めくくった。

つづいて、下宏・和歌山県副知事から基本要求的の回答を兼ねたあいさつがあった。

あいさつで下副知事は、県条例については、市町村が果たしてきた役割を念頭におきつつ、さらに研究・検討をおこなう。ネット上の人権侵害について、4月から実施しているモニタリング事業の手法や削除要請の方法など、市町村や関係機関等と情報共有する。障害者差別にかかわって「紀の国障害者プラン2018」を策定し、あいさぽーと運動をはじめ障害への理解を促す啓発をすすめる。隣保館での相談事業をはじめ、社会福祉の向上や同和問題をはじめ、さまざまな人権課題を解決するための重要な施設として市町へ積極的にとりくむよう働きかけている。「部落差別解消推進法」にもとづく実態調査について、地方公共団体や教育委員会が把握する差別事例について、和歌山県方法務局へ回答してきた。「和歌山県子供の実態調査」では、



あいさつする田上武・県実行委員会会長

家庭の経済状況や子どもの学習状況や社会性、生活習慣等にどう影響しているのかを調査した結果、経済的に厳しい世帯の子どものほど授業の理解は低く、学習習慣が定着していない傾向にあり、進学へのイメージをもつことがむずかしく、頑張ればよいことがあるなど

の自尊感情が低いなどが明らかになったことをふまえ、9部局24課室で構成する庁内会議でとりくんでいくなどが回答された。

あいさつのおと、松井辰也・県連書記次長から行動提起のあと、各支部に分かれて交渉した。

8月28日の対和歌山市交渉を掲載する

健康局

隣保館がない山口では、支所でおこなっている巡回相談にたいし、周知がされておらず、しかも遠い。人数が少なくてもニーズがあれば年1回でも実施してほしいと要求。また、巡回相談の具体的な場所等、後日回答を求めた。鳴神から、何年も総合福祉センター建設の要求をだしているが、

が、空室問題もふまえ、更なる入居基準拡充を要求した。

いまだ検討とはどういうことだと詰り寄り、予算がつかなくてもビジョンはできるはずで、支部と協議するよう求めた。

和歌山市中小企業融資制度等の資金面での支援や販路開拓、新商品開発、人材育成や技術の伝承等に支援をおこなっている。雇用対策は、地域の隣保館での巡回職業相談やパソコンを設置し、ハローワークの最新求人情報の提供をおこなっているが、青年の就業問題解決にむけたとりくみは不十分。いずれも一般対策と同様であるため、部落の若年層が直面している就業実態を十分に把握したうえで、あらゆる施策を講じていくよう要求した。

昨年からの相次ぐ台風や大雨の影響で地区内では浸水被害が多発している。「避難場所」として、隣保館や大型共同作業所などの地域内施設を避難場所指定し、災害用備蓄品の設置を要求してきたが、耐震性や立地条件、スペースの問題などを協議していくということであった。また、用排水路やため池の点検・改修等も

が、空室問題もふまえ、更なる入居基準拡充を要求した。

地域の公共施設建て替えについては、各施設の状態を調査・把握し、後日協議することにより、「地域力強化推進事業」について、受託者である市社会福祉協議会が各種団体や代表者と協議しながらすすめていくとの回答に、部落は隣保館があることで社協も福祉も素通りされ、結果として排除されてきた経過がある。この事業が地域のなかでどう生かされるのか、どう地域とかがわっていくのかと問うと、地区社協を中心に42地区を回っている。そうした状況は知らなかったもので、協力しながら連携していくように指導・助言すると回答した。隣保館では相談業務があり、悩みやニーズを把握し行政に繋げてきたが、せっかくな事業ができたのなら一緒にとりくむなど、もう一歩すすんだことができるはず。しっかりと市として関わってほしいと要求した。和歌山市障害者差別解消調整委員会のできごとも含めて、当事者から意見があり、学習会を開催していくことを確認した。

地域の公共施設建て替えについては、各施設の状態を調査・把握し、後日協議することにより、「地域力強化推進事業」について、受託者である市社会福祉協議会が各種団体や代表者と協議しながらすすめていくとの回答に、部落は隣保館があることで社協も福祉も素通りされ、結果として排除されてきた経過がある。この事業が地域のなかでどう生かされるのか、どう地域とかがわっていくのかと問うと、地区社協を中心に42地区を回っている。そうした状況は知らなかったもので、協力しながら連携していくように指導・助言すると回答した。隣保館では相談業務があり、悩みやニーズを把握し行政に繋げてきたが、せっかくな事業ができたのなら一緒にとりくむなど、もう一歩すすんだことができるはず。しっかりと市として関わってほしいと要求した。和歌山市障害者差別解消調整委員会のできごとも含めて、当事者から意見があり、学習会を開催していくことを確認した。

地域の公共施設建て替えについては、各施設の状態を調査・把握し、後日協議することにより、「地域力強化推進事業」について、受託者である市社会福祉協議会が各種団体や代表者と協議しながらすすめていくとの回答に、部落は隣保館があることで社協も福祉も素通りされ、結果として排除されてきた経過がある。この事業が地域のなかでどう生かされるのか、どう地域とかがわっていくのかと問うと、地区社協を中心に42地区を回っている。そうした状況は知らなかったもので、協力しながら連携していくように指導・助言すると回答した。隣保館では相談業務があり、悩みやニーズを把握し行政に繋げてきたが、せっかくな事業ができたのなら一緒にとりくむなど、もう一歩すすんだことができるはず。しっかりと市として関わってほしいと要求した。和歌山市障害者差別解消調整委員会のできごとも含めて、当事者から意見があり、学習会を開催していくことを確認した。

地域の公共施設建て替えについては、各施設の状態を調査・把握し、後日協議することにより、「地域力強化推進事業」について、受託者である市社会福祉協議会が各種団体や代表者と協議しながらすすめていくとの回答に、部落は隣保館があることで社協も福祉も素通りされ、結果として排除されてきた経過がある。この事業が地域のなかでどう生かされるのか、どう地域とかがわっていくのかと問うと、地区社協を中心に42地区を回っている。そうした状況は知らなかったもので、協力しながら連携していくように指導・助言すると回答した。隣保館では相談業務があり、悩みやニーズを把握し行政に繋げてきたが、せっかくな事業ができたのなら一緒にとりくむなど、もう一歩すすんだことができるはず。しっかりと市として関わってほしいと要求した。和歌山市障害者差別解消調整委員会のできごとも含めて、当事者から意見があり、学習会を開催していくことを確認した。

頑健

昨年4月に「アイヌ新法」が施行された。日本本の先住民であるアイヌの人びとの誇りが尊重される社会の実現」が柱である▼さて、今から約100年前、知里幸恵という女性がいた。北海道登別生まれの彼女の祖母はアイヌ民族の口承叙事詩「ユーカーラ」の語り手だった。文字をもたないアイヌ民族の人びとは、口承や語り

自然のなかにある神・ユタンや英雄の神話、伝説をもとに民族のアイデンティティや誇りを伝えた。彼女は、15歳のときに言語学者・金田一京助と出会い、ユーカーラを「文字」に残すことを決心。アイヌ語と日本語を駆使し、17歳から3年間かけて「アイヌ神謡集」を完成させた夜に、心臓発作で19年の短い生涯を閉じた▼彼女の生きた時代は、アイヌ民族にたいする厳しい差別のなかで、民族のアイデンティティ(伝統文化、言語、民族の誇りなど)が絶滅の危機にあった。そうした時に「アイヌ神謡集」は、アイヌ民族の復権復活への大きな転機となった▼その後「アイヌ神謡集」は、柳田國男や金田一らの協力で発表され、フランス語訳なども出版された▼私が子どもの頃に衝撃を受けた映画「コタン」の口笛を思い出したが、なににせよ「部落差別解消推進法」など人権関係法もそうだが、具体的になにをするかが重要なのだが… (S・I)